



21世紀の幕開けという平成13年度から、播磨町の第3次総合計画がスタートします。

私たちの町は、大中遺跡に見られるように、古代にさかのぼる古い歴史を有した町であり、新井水路を開削した今里傳兵衛、日本で最初の新聞「海外新聞」を発刊したジョセフ彦など輝かしい先覚者を生んだ町でもあります。

こうした町の歴史と文化を基礎として、昭和56年4月から「緑と、こころのふれあいと、生きがいのある播磨町」の実現をめざした第1次総合計画を、さらに平成3年4月からは「共に生きよう ふれあいのまち “はりま”」をめざして、新総合計画の推進に努めてまいりましたが、近年、少子・高齢化、文化・教育、情報化・国際化、環境問題など、新たな諸問題の解決に取り組むことが必要になってまいりました。

そのため、第3次総合計画は、基本理念に「共生社会都市」「快適生活都市」「連携協働都市」の実現を掲げ、21世紀初頭におけるまちづくりの目標を『古代から 輝く未来へ！ みんなでつくるまち はりま』として、基本的な考え方と長期的、総合的な指針を示しています。

本計画を推進していくためには、「住民の皆様や企業が、まちづくりを行政からの受け手とする考え方から、逆に働きかけをする側に立っていただくこと」が大切です。まちづくりの主体である住民の皆様と企業そして行政が相互の信頼と責任のもと、連携・協働し、21世紀の本町を一層すばらしいものにしていきたいと思っています。

なお、本計画の策定にあたりまして、全世帯アンケート調査やまちづくり委員会、行政懇談会などで貴重なご意見をいただきました住民の皆様、ならびに熱心にご審議いただきました長期総合計画審議会委員の皆様、関係者の方々に心から感謝を申し上げます。

平成13年4月

播磨町長 佐伯 忠良

